

静岡県立美術館・静岡大学共催「新収蔵品展」関連トークイベント

作品に含まれる複数の時間

—竹村京《修復されたC.M.の1916年の睡蓮》を前に

わたしたちの目の前にある作品には、複数の時間が含まれています。

たとえば、竹村京の《修復されたC.M.の1916年の睡蓮》は、1916年にクロード・モネによって制作され、2016年に破損した状態で発見された《睡蓮、柳の反映》を、刺繍によって想像的に〈修復〉することを試みた作品です。2024年、モネの同作を所蔵する国立西洋美術館の展覧会で発表され、同年、寄贈により静岡県立美術館のコレクションに加わりました。

同作品の新収蔵と初披露を記念し、国立西洋美術館主任研究員・新藤淳と、日本文学研究者・中村ともえが、竹村作品を入口に、美術と文学の時間をテーマに対談を行います。

登壇：

中村ともえ

静岡大学准教授。2025年、『「陰翳礼讃」と日本的なもの 建築と小説の近代』（教育評論社）を刊行。同書の表紙の装丁には、竹村京の《Time Counter (2019-2023)》が使用されている。



新藤淳

国立西洋美術館主任研究員。2024年、国立西洋美術館初の現代美術展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？——国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」を企画。

司会：川谷承子(静岡県立美術館上席学芸員)



2025年5月31日（土） 14:00～15:30

静岡県立美術館 1F 講堂

参加費：無料 申込：不要 問い合わせ先：nakamura.tomoe@shizuoka.ac.jp